



2004年11月28日

日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

43-0468 (福田)
42-2462 (鈴木)

男女共同参画推進事業 「男と女いきいきステップアップ」公開講座



男女共同参画推進事業として公開講座が十一月二〇日、ふれあいセンターで開かれました。写真展入選者表彰について、長谷川幸介茨大助教授が「男も生きる女も生きるかけがえのない人生」と題して基調講演。金で計られ、比較される世界だけでなく、一人一人が役割を持ち、かけがえのない人々を送れる世界をしっかりとしようではないかとの問題提起でした。

それをうけてのパネルトークでは、市民各層からの四人の発言とコーディネーター長谷川氏との活発なやりとりがあり、参加者の共感や関心を呼んでいました。

つづいて明野町の朗読グループ「はらんきょうの会」による寸劇「茨城弁で語る女性差別撤廃条約」。条約の精神を井戸端会議よろしく地元の言葉でしゃべるもので、その身近さに参加者は笑いながらも身につまされ、改めて「女と男がそれぞれにかけがえない輝く人生」を考える糸口となりました。

秋まつり



磯原町木皿の王子神社祭礼にて。(11月23日)

ご相談は
お気軽に



市議会議員
鈴木やす子
☎ 42-2462



市議会議員
福田 明
☎ 43-0468

市立病院運営検討委員会 開催

第三三回北茨城市立総合病院運営検討委員会が十一月八日に開かれました。主な議題は、平成一六年度の収支状況についてでした。報告によると、患者数は少し減りましたが、収入は増加しています。つまり、患者一人当たりの個人負担額が増加しているということになります。こまかな分析はこれからとありますが、MRIなどの高度医療機器の導入で検査費用が高上がりになっていることの影響もあるだろうとのこと。

全体の議論では、病院経営の困難さ、とくに公立病院の収支の厳しさがあげられました。病院形態や診療報酬、研修医制度の変更など医療機関をめぐる状況の変化があり、そして相次ぐ患者の負担増による受診抑制とがからみあい、経営をいつそう困難にしています。そういうなかで、市立病院としての公共性や現在の医療水準を保ちながら、可能なかぎり経費削減に努力していくとの担当の答弁でした。

新市立病院建設 基本計画策定委員会 発足

この二二日、「新市民病院建設基本計画策定委員会」が発足しました。これまでの基本構想の検討の段階では、審議内容を公開することで自由な論議が妨げられるとの市長の見解もあり、必ずしも開かれた議論とはなっていないませんでした。

いよいよ診療内容や規模、建設予定地、財源計画など具体的な課題を検討する段階に入つて、今後は、市民にも広く情報を提供していくことが強く求められます。

新市立病院建設は 開かれた議論で

日本共産党北茨城市議団の
HPアドレスが変わります。
<http://www.jcp-ktib.com/>

中越災害救援報告

新潟県中越地震被災救援のために日本共産党は、長岡市に全国救援センターを置き、そのほか小千谷市、南魚沼市、川口町の3カ所にセンターを設けて、連日、救援活動に全力をあげています。このほど、北茨城市の鈴木孝夫農業委員ら4名が、主に農民連から託された物資などを届け、支援活動にも参加してきました。現地で見たとすなどを紹介します。

現地へは、支援物資を積んだワゴン車で向かいました。あらかじめ市から発行してもらった「災害派遣車両証」は往路・復路で第11号および12号でした。

救援センターには、全国からボランティアが集まっています。私たちが長岡のセンターに行ったのは二四日(水曜)でしたが、五〇名を超える人たちがきてきばきと働いていました。前の日(休日)には、二百数十名の人が活動に参加したとのことでした。

じつさいに支援に入った小千谷市では、「ここまで来てくれたのは共産党だけです」といった声も聞かれて、いっしょに行った息子(高校2年)が驚いていました。聞けば、たとえば行政の側から被災住民のところに足を運んで要望を聞くなどの対応はほとんどなされてないとのことでした。

「私は共産党の救援センターのことを知らず、最初は新潟市にあるボランティアセンター

ターへ電話しましたが、人手が足りて

いるとのこと断られて

しまいました。出身地でもあり、一時期は長岡で生活していたことのある身として、何とかして参加できないものかとあちこち探してようやく共産党の救援センターを知り、電話もせずに東京・池袋からバスに乗りました」というような人も少なからず参加しています。

そうした人たちも「日本共産党救援隊」の腕章をつけています。ボランティアを騙った犯罪まで出てくるなか、共産党の腕章が信頼の証にもなっているのだそうです。

*

くわしい支援のようすや、いま現地が必要としている物資、支援活動に参加した人の感想などが、日本共産党の全国救援センターのホームページで連日報告されています。どうぞご覧ください。アドレスは次のとおり。

<http://www.yuiuidori.net/kyuen/>



避難所のようすなどはマスコミでも報道されていますが、一步、地域に入ってみると、まだまだ支援の手は届いていないのが実態でした。写真で左のほうに、今回参加した高校生の鈴木はると君や高萩市の大内智子さん。

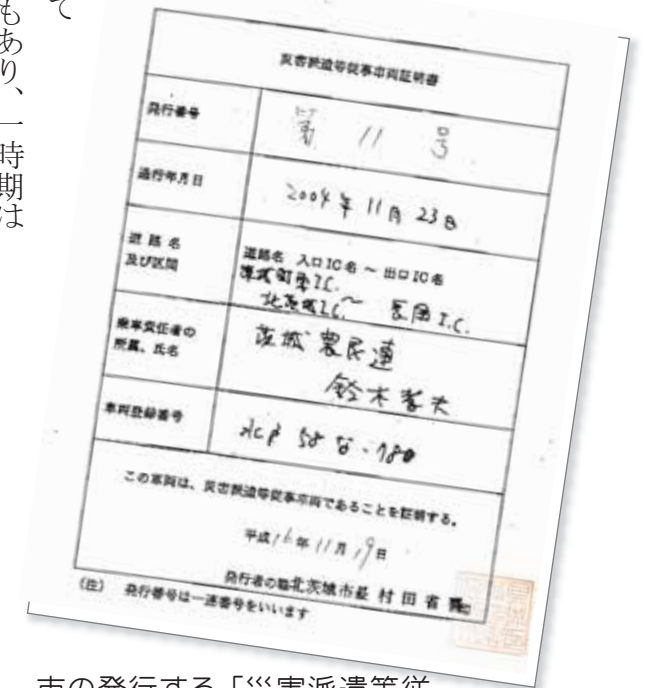


日本共産党が設置している救援センターには、若い人の姿もたくさんみられました。

長岡市内の空き店舗を活用したとみられる全国救援センターと、同行・奮闘してくれた磯原町木皿の鈴木一さん。



「ぜひ写して」と言われて撮った被災住宅。



市の発行する「災害派遣等従事車両証明書」を携行すれば、高速道の通行が無料になります。